

京林大だより

創刊号



絵:京林大生 熊走君

はじめまして 林業大学校です

2012年4月9日、西日本で唯一の林業大学校となる京都府立林業大学校が開校し、入学式と記念式典が林業大学校講義室（京丹波町役場和知支所2階）ならびに、和知ふれあいセンターで執り行われました。

例年より数日遅れの桜が咲き誇る中、保護者はじめ関係者各位に見守られ新たな一步を踏み出す学生は21名。高校の新卒生から社会人経験者まで、年齢もキャリアも実にさまざまです。日々の授業や学校生活をおくるなかで、ひとりひとりの考え方や経験がお互いにより刺激となり、本校での勉学を実り豊かなものとしてくれることを願ってやみません。

校長からは「自然に学び、自然を尊敬できる、林業の担い手になってもらいたい」。その言葉



は、林大のパイオニアとなる一期生たちにどう響いたでしょうか。

入学式の後にはふれあいセンターに場所を移しての開校記念式典。山田啓二京都府知事をはじめ地元の方々など、数多くの御出席をいただきました。新入生たちも京丹波町からのあたたかい歓迎の心を感じたことと思います。

本校では「志」「夢」「行動力」を合い言葉に、自然を尊敬できる人間を育てたいと願っています。今後とも、皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。



(上)ゴールの舞鶴港にて
(右)しばしひと休み



新入生オリエンテーション

和知から舞鶴港まで 50kmを踏破

入学式から2日後の4月11日から、1泊2日で林業大学校から舞鶴港まで、約50kmを歩きました。21名を5班に編成し、地図を頼りに和知山の家、仏主、境峠、綾部山の家（宿泊）、弥仙山と進みます。あいにく1日目は悪天候に見舞われ、一部はバスで迂回となりましたが、森林組合の作業風景や、雪害の傷跡も生々しい杉林など、「生きた教材」を川上から川下まで脚で確かめつつ進みました。

私たちがスタッフです



本校専任の教職員です。学生たちが一期生であるように、我々も一期生。ともに学び、成長していきたいと思っています。一緒に、京林大を盛り上げていきましょう。

Pick Up!

6月の講義予定

日付	講義名	内容
6月5日	京の木と文化	南禅寺界限で日本の庭園を学ぶ
6月6日	森林科学3	「瑞穂の里さらびき」「美山町自然文化村」で木質バイオマスを学ぶ
6月23日	林大協合同講義 林野庁長官による講義、ならびに他県林大との交流	

6月6日の「森林科学3」の講義の様子は京丹波町ケーブルテレビで放送予定ですぜひご覧ください



校長室より

京都府立林業大学校、
よろしくお願ひいたします

はじめまして。校長の只木良也です。

学校予定地の和知を訪れた1月末、町のあちこちで「祝・4月開校 京都府立林業大学校」の幟旗を見かけました。その数には驚き、喜び、そして感謝あるのみ。京丹波町の皆様の歓迎を受けながら、京都府立林業大学校は開校の運びとなりました。

わが国は、先進国随一の森林国です。国の中に森林が多いということは、これからますます重要となる資源・環境・文化形成などの諸問題を、完熟した自然である森林に軸足を置いて考えることがで

京林大のヒミツ

— 京林大生の制服って？ —



えんじ色のジャケットにモスグリーンの肩掛けかばん、これが京林大の制服です。

大手アウトドアメーカー「モンベル」が製作したジャケットはナイロン製の長袖で、右胸には校章、左袖には筆記用具が差し込めるホルダー、背中には薄暗い場所でも目立つ黄色い反射材がついています。

「一澤信三郎帆布」製の肩掛けかばんは山中での実習でも傷みにくい丈夫な厚手帆布を使用し、筆記具・教科書からナタやノコギリまで収納できます。どちらもデザイン性と機能性を重視しており学生からも人気ですが、遠目にも暗い場所でもよく目立つと、引率する先生たちからも好評です。

こういった制服が活躍するのも、現場での実習に力を入れている京林大ならではの、なのかもしれませんね。



きる国だということ。林業の復権も含め、その実践のために求められているのは、小手先ではなく、森林という自然がもつ摂理に沿った技術・政策であり、またその技術・政策に長け、理に適った対応策が考えられる人材です。そして、そんな明日の林業の担い手の育成こそが、本校の任務にほかなりません。

自然を愛するだけでなく、尊敬し、その摂理を生かせる人を育てたい——。そう願ひ、目標として一步を踏み出した本校には、地元をはじめ広く皆様のご支援が不可欠です。どうぞあたたかく見守り、ご支援くださいますようお願い申し上げます。